

令和 7 年 度

業 務 説 明 書

役務名： 八軒 4 丁目中央線（八軒 9 条西 4 丁目）ほか大口径管調査業務

令和7年5月単価適用

札幌市下水道河川局事業推進部

業 務 説 明 書

1, 業 務 委 託 理 由

2, 調 査 番 号

本業務の調査番号は、 6241 とする。

3, 業 務 箇 所

(1) 西区八軒 9 条西 4 丁目 (2) 西区八軒 9 条西 7 丁目

(3) 中央区北 1 6 条西 1 6 丁目 (4) 中央区大通西 1 4 丁目

ほか

4, 業 務 概 要

総延長 L=27, 539m

(1) 調査工 ϕ 2000mm $\sim$ 4600 $\times$ 2960mm L=27, 539m (別表のとおり)

(2) 修繕工 一 式

5, 履 行 期 間

契約締結日から令和8年3月19日までとする。

6, 仕 様 書

下水道管路保全業務仕様書【本管調査編】及び大口径管テレビカメラ調査業務仕様書
【維持作業編】（共に下水道河川局庁舎1階閲覧室で公開）、下水道管路維持管理業務仕
様書、特記仕様書（下水道管路清掃に係る廃棄物収集運搬業務特記仕様書を含む）による。

特記仕様書

1, 交通誘導警備員について

交通誘導警備員は、下記に示す人員を見込んでいる。現地の状況、その他関係機関との協議により

配置人員の増減、追加等が生じた場合は、業務監督員と別途協議すること。

調査箇所	標準作業帯	工種	配置人員	誘導員種別
公安委員会 認定路線及 び市街地	昼間	管内調査	3人以上	交通誘導警備員A・B
	夜間	管内調査	3人以上	交通誘導警備員A・B
上記以外	昼間	管内調査	3人以上	交通誘導警備員B
	夜間	管内調査	3人以上	交通誘導警備員B

※ 市街地とは人口集中地区（DID地区）及びこれに準じる地区を指す。

※ 現道に係る調査路線においては、交通誘導業務は原則として、警備業の認定を受けている会社に所属する警備員が行わなければならない。

※ 交通誘導警備員Aとは、交通誘導警備業務1級または2級検定合格警備員で、交通誘導警備員Bとはそれ以外のものをいう。

※ 公安委員会認定路線及び市街地での作業時には、交通誘導警備員Aを1人以上配置すること。

また、業務監督員に交通誘導警備員Aとしての資格が分かる資料を提示し、確認を受けること。

※ 市街地（公安委員会認定路線を除く）において交通誘導警備業務を行う場合で、検定合格警備員の配置が困難な場合は、その理由書と交通処理計画を業務監督員と協議し、対応を協議しなければならない。

2, 履行開始日について

本業務の履行開始日は、令和7年6月25日と想定して、履行期間の設定及び積算を行っているが、

履行開始日が想定した日と異なったとしても設計変更の対象とはしない。

3, 産業廃棄物等の処理運搬等について

受託者は、下水道管内に作業上支障となる産業廃棄物等を発見した場合は業務監督員へ報告し、その処理運搬等の措置について協議を行うこと。

4, 管内調査、維持作業に係る留意事項について

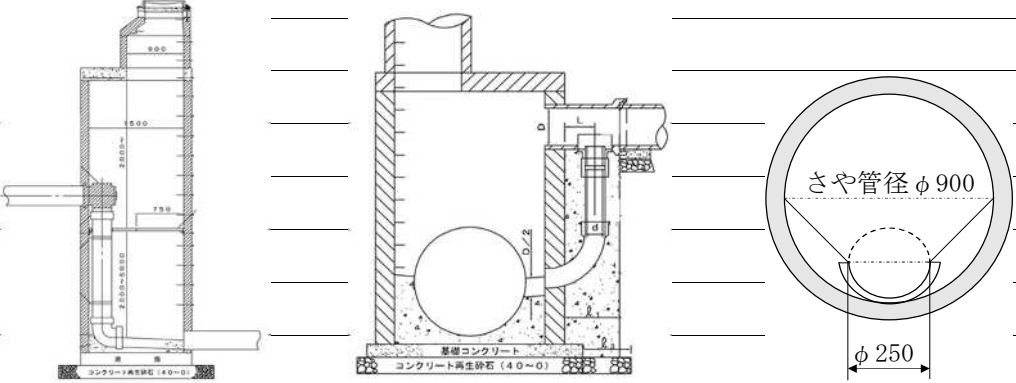
1) 管内調査工法については、以下に示すとおりとする。ただし、水量調査で現場状況を確認し、その結果を元に業務監督員と協議し、調査工法を決定すること。

・大口径管テレビカメラ調査

・潜行目視調査

・船体式カメラ調査

・自走式カメラ調査

・浮体式カメラ調査
・飛行式カメラ調査
2) 大口径管テレビカメラ調査は大口径管テレビカメラを用いて調査することとし、調査前の洗浄を省略する。 管きょ洗浄を必要とする場合は、別途業務監督員と協議すること。
3) 潜行目視調査について、調査前の清掃を省略するが、管きょ内に土砂等の堆積があり清掃及び土砂処理の 必要がある場合は、別途業務監督員と協議すること。
4) 潜行目視調査における記録写真の撮影は、おおむね10m当り3回（1回あたり直視1枚、側視2枚） を標準とする。
5) 船体式カメラ調査、自走式カメラ調査、浮体式カメラ調査及び飛行式カメラ調査については、管路内の 異常の有無を把握できる映像を撮影すること。
6) 管内調査後、判定結果の内容を下記に示す資格を有する者が判定内容の確認を行うこと。 なお、判定内容の確認を行う者は、最初に判定した者以外とする。
・コンクリート診断士
・技術士（建設部門、上下水道部門）
・下水道管路管理総合技師
・下水道管路管理主任技師
7) 副管があることが確認された路線については、その旨をテロップ表示するとともに、「TVカメラ調査記 録表」内の備考欄に明記すること。（記入例：「外部副管あり」）
8) 現地調査時に管内調査に際してさや管（管内インバート工）等の疑義がある場合は、その旨業務監督員に 報告し、指示を受けること。
9) 維持作業（清掃工及び修繕工）の数量については、想定数量であり作業を確定するものではない。 なお、維持作業数量は、管内調査工の結果に基づき業務監督員と別途協議すること。
10) 維持作業が必要な異常箇所があった場合は、業務監督員に報告し、その指示に従って作業を行うこと。
11) 前項に係る事項及びその他事項で疑義がある場合は、業務監督員と協議し決定すること。

(内部副管例)
(外部副管例)
(さや管（管内インバート工）例)

5, 水量調査について
1) マンホール目視調査工の実施は、【令和7年度】下水道管路維持管理業務仕様書の第4章計画的調査【人孔巡視調査】を参考に調査を実施し、成果を報告すること。
2) マンホール目視調査にあたり、マンホール内の洗浄が必要となる場合は、別途業務監督員と協議を行うこと。
3) マンホール内の滞水状況により、管内調査の工法が決定することから、マンホール目視調査から作業を開始すること。
なお、マンホール内の流下状況は都度業務監督員へ結果を報告することとし、報告の頻度は業務監督員と協議し決定すること。
報告に当たっては、別添「マンホール目視調査流下状況速報値」を使用することとし、この様式によりがたい場合は、業務監督員と提出様式の協議を行い決定すること。
4) マンホール目視調査結果から維持管理上、修繕作業の必要が生じた場合は、別途業務監督員と協議を行うこと。
5) 水量の計測箇所については、業務監督員と協議を行い決定すること。
6) 流量調査工の詳細については別添「下水道調査に係る流量調査業務特記仕様書」を参考に調査を実施し、成果を報告すること。
7) 前項に係る事項及びその他事項で疑義がある場合は、業務監督員と協議し決定すること。
6, 空洞調査について
1) 本業務における空洞調査は、本市が指定する判定基準で緊急度ⅠもしくはⅡと判定された管路のうち、異常が著しい箇所を対象に実施するものである。
2) 調査箇所については、管内調査後、調査結果を元に業務監督員と協議し、決定すること。
3) 空洞調査工の詳細については別添「土質調査特記仕様書」を参考に調査を実施し、成果を報告すること。
4) 前項に係る事項及びその他事項で疑義がある場合は、業務監督員と協議し決定すること。
7, 再判定について
1) 業務監督員が指定する管渠の緊急度判定を業務監督員が提供する資料を基に行うこと。
2) スパン全体の評価などの判定基準を業務監督員と協議した後、再判定を行うこと。
3) 再判定を行うものは、下記に示す資格を有する者が行うこと
・コンクリート診断士
・技術士（建設部門、上下水道部門）
・下水道管路管理総合技師
・下水道管路管理主任技師
4) 前項に係る事項及びその他事項で疑義がある場合は、業務監督員と協議し決定すること。

下水道管路清掃に係る廃棄物収集運搬業務特記仕様書

本業務の清掃工において、発生する汚泥等の収集・運搬に関しては、つぎのとおり適用する。

1, 収集・運搬

- (1) 収集・運搬とは、当該清掃業務履行区間において発生する下水道汚泥(土砂・沈砂等)を発注者の指定する受入施設に運搬することをいう。
- (2) 受託者は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の第14条第1項の業務許可証の写しを契約書に添付すること。また、許可事項に変更があったときには、その旨を発注者に通知するとともに、変更後の許可証の写しを提出すること。

2, 搬出先

下水道汚泥等の搬出先は、下水道河川局手稲沈砂洗浄センター(札幌市手稲区手稲山口271番地5)とする。
コンクリートくず等の汚泥運搬車で搬出できないものがあつた場合は、業務監督員と協議し、その指示に従うこと。なお、搬出先は、(株)公清企業 第2エコパーク(札幌市東区中沼町45番地57)とする。

3, 積替保管

受託者は、下水道汚泥の積替保管を行ってはならない。

4, 収集・運搬に関わる注意事項

- (1) 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、「産業廃棄物運搬車両であることの表示」と「許可証の写し等の書面の備え付け」を行うこと。
- (2) 悪臭の発生防止に努めること。
- (3) 他の廃棄物との混合を行ってはならない。
- (4) 運搬物が漏出又は飛散しないよう留意し、下水道施設又は路面などが汚染した場合は、受託者の責任において速やかに清掃、洗浄を行うこと。

5, マニフェスト

産業廃棄物管理票制度に従い、発注者の発行する管理票(マニフェスト)に必要事項を記入し、適切な処理を行うこと。

下水道調査に係る流量調査業務特記仕様書

本業務の調査工において実施する流量調査に関しては、つぎのとおり適用する。

1, 基本事項

- (1) 計測期間は、本業務期間内で30日間とする。ただし、流量計の故障等により有効な計測データが
取れない場合は計測期間の延長を業務監督員と協議の上、決定すること。
- (2) 計測箇所は、別紙「位置図」に示す箇所の中から業務監督員と協議の上、決定すること。

2、作業内容

- (1) 流量計の設置撤去作業や巡回点検等を行い、計測データの整理を行う。
- (2) 計測期間中に流量計の巡回点検を設置後概ね 7 日間おきに計 4 回行うこと。
- (3) 使用する流量計は、面測式流量計（流速・水位法）を想定している。設置する下水道管内の条件において十分な成果を得られる機器を使用することとし、事前に業務監督員の承諾を得ること。
- (4) 計測データは、1 分ピッチで収録させること。また、巡回点検にあわせてデータを抽出し、途中経過を把握すること。
- (5) 流量計の故障等による責任について、本市は負わないものとする。
- (6) 計測データを原資料と図表等の集計資料にとりまとめて整理し、全て報告書として提出すること。報告書の様式や内容等については、業務監督員の承諾を得ることとする。

3, 参考文献について

流量計の機器選定及び設置作業の実施等にあたっては以下の文献を参考にすること。

- | | | |
|-----|---|------------------------|
| (1) | 下水道管きょ等における水位等観測を推進するための手引き（案）（平成29年7月） | 国土交通省
水管理・国土保全局下水道部 |
| (2) | 下水道管路内流量・水質調査マニュアル（平成28年2月） | 一般社団法人全国上下水道コンサルタント協会 |

土質調査特記仕様書

1. 受託者は、各調査地点の位置及び調査順序等の詳細について、事前に担当職員と協議すること。
2. 受託者は、調査にあたり、私有地等を使用するときは事前に担当職員と協議すること。
3. 受託者は、作業の進捗状況を担当職員に報告すること。
4. 作業日報には、試験項目、進捗率、職種別作業人員及び使用機器等の作業内容を記載し業務完了時に担当職員に提出するものとする。
5. ボーリング作業を行うにあたり、事前に地下埋設物を調査し損傷を与えないよう特に注意するとともに、作業区間の安全確保に万全を期し、事故防止に努めること。
6. ボーリングは、一孔完了ごとにその深度等の確認のため、担当職員の立会いまたは、写真等により検査を受けるものとする。
7. 調査によりあけられたボーリング孔は、担当職員の立ち会い検査後必ず砂等により充填すること。
8. 作業を完了したボーリング地点には、孔番、深度、完了年月日及び受託者を明記した標識を設置し、その位置を明確にするものとする。また、業務完了検査後は速やかに撤去すること。
9. 地質構成の判定及びその他解析業務等は、事前に担当職員と十分協議を行うものとする。
10. その他、調査に必要な項目は、担当職員と協議を行うものとする。
11. ボーリング柱状図については、次頁以降の作成要領に準拠すること。

【ボーリング柱状図作成要領】

本要領は、「ボーリング柱状図作成要領（案）解説書」（建設省大臣官房技術調査室監修）に基づき、ボーリング調査において作成する柱状図の作成要領である。その記入要領は次による。

1. 調査名

調査名を発注業務にそって記入する。

記入例： 西 24 丁目線（南 4 条西 24 丁目）ほか大口径管調査業務

2. 事業・工事名

業務名が地区名等で決められている場合、発注業務名だけではどの工事の調査であるのか不明であることが多いので、幹線番号や幹線名がある場合には記入すること。

3. ボーリング No.（コード番号）

本市は特に記入の必要はない。

4. ボーリング名

ボーリング名は下記を参考に監督員と協議しボーリング名を決定することとする。

例) B—— 新設ボーリング———— B-1 (H-10), B-2 (H-10)

注) (H-○)：平成, (S-○)：昭和

5. 調査位置，緯度，経度

調査位置については，調査現場の地名（区，地区名，条丁目，番地）を記入する。

緯度・経度については，国土地理院 1/25,000 地形図より，孔口の緯度・経度を 1 秒単位まで求め記入する。国土基本図，あるいはその他の大縮尺地形図等があればそれらをもとに 1/10 秒単位まで記入する。なお，1 秒は 1/25,000 地形図上では約 1 mm の長さとなるが，緯度によって異なるので地点ごとに求める。

6. 発注機関

発注機関は，「札幌市下水道河川局事業推進部管路保全課管路保全係」のように記入する。

7. 調査期間

調査期間は，「業務開始の日から〇〇日間」または「令和〇〇年〇月〇日まで」と記入する。

8. 調査業者名等

調査業務名，主任技師，現場代理人，コア鑑定者，ボーリング責任者を必要項目について記入する。

9. 孔口標高

孔口標高 H を測量結果に基づき，1/100m 単位まで記入する。

10. 総掘進長

総掘進長は調査対象となるボーリング区間を 1/100m 単位まで記入する。

11. 角 度

角度は，鉛直線となす角度を図 2-1 の例によって記入する。

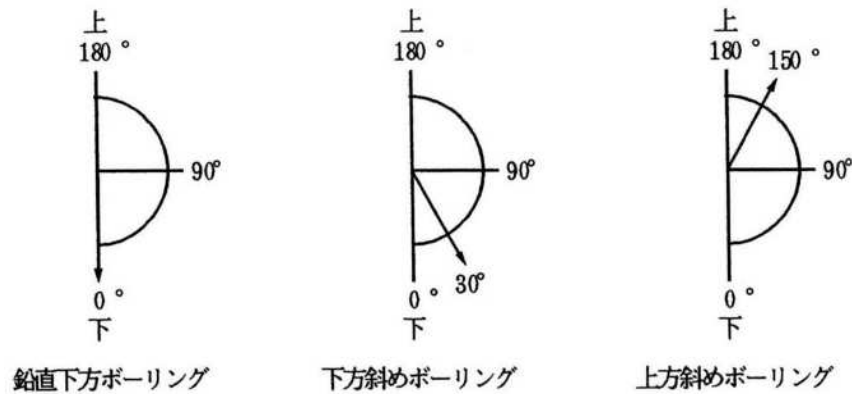


図 2-1 ボーリングの角度の表示例

なお、角度は孔口における掘進角度を記入し、穴曲り計測を行った時には、その結果を原位置試験の欄に記入する。

12. 方 向

方向については、斜めボーリングの時に記入し、掘進の方向を真北より右回り 360° 方位法で図 2-2 の例のように示す。なお、方向は孔口における掘進方向を記入し、穴曲り計測を行ったときは、11. と同様とする。

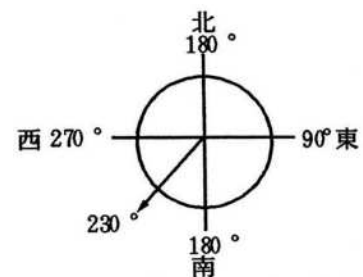


図 2-2 ボーリングの方向

13. 地盤勾配

地盤勾配は、下方ボーリングのみについて、孔口を中心に傾斜上下方向各々5m程度の範囲の平均勾配を図 2-3 のように記入する。地盤勾配は、作業能率、穴曲り等に影響するので掘進の記録として残すものである。

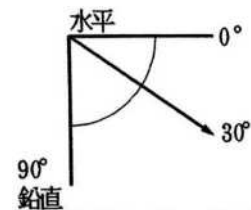


図 2-3 地盤勾配の表示例

14. 使用機種

使用機種については、試錐機、エンジン、ポンプのメーカー名、型式記号、能力について記入する。

ハンマー落下用具は、トンビ、コーンプリーまたは自動落下の区別を記入する。

15. 標 尺

標尺は、孔口を起点に 1m 毎に記入する。縮尺は 1/100 を原則とする。

16. 標 高

標高については、19. の土質区分毎にその標高を記入する。斜めボーリングについても標高を求め記入する。

17. 深 度

深度については、土質区分毎にその孔口からの距離をもとに記入する。

18. 層 厚

層厚は、土質区分毎の区間長を記入する。

19. 柱状図，土質区分

柱状図及び土質区分は，日本統一土質分類を基調に図 2-4 によって下記に留意し記入する。

第 1 分類			第 2 分類			第 3 分類		
区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様
土質材料	礫 (G)	○ ○ ○ ○	補助記号	砂質 (S)	////	岩石材料	硬岩 (HR)	
	礫質土 (GF)	○ ○ ○ ○		シルト質 (M)	////		中硬岩 (MR)	
	砂 (S)	● ● ● ●		粘土質 (C)	////		軟岩，風化岩 (WR)	
	砂質土 (SF)	● ● ● ●		有機質 (O)	〃 〃 〃 〃	特殊土材料	玉石 (B)	○ ○
	シルト (M)	---		火山灰質 (V)	~~~~		浮石 (軽石) (Pm)	△ △ △ △
	粘性土 (C)	===		玉石混り (-B)	○ ○ ○ ○		シラス (Si)	△ △ △ △
	有機質土 (O)	〃 〃 〃 〃		砂利，礫混り (-G)	● ● ● ●		スコリア (Sc)	△ △ △ △
	火山灰質粘性土 (V)	~~~~		砂混り (-S)	● ● ● ●		火山灰 (VA)	~~~~
	高有機質土 (Pt)	〃 〃 〃 〃		シルト混り (-M)	---		ローム (Lm)	ハ ハ ハ ハ
土質材料				粘土混り (-C)	////		黒ボク (Kb)	〃 〃 〃 〃
				有機質土混り (-O)	〃 〃 〃 〃		マサ (WG)	+++
				火山灰混り (-V)	~~~~	表土	土 (Ss)	XXXX
				貝殻混り (-Sh)	○ ○ ○ ○	埋土	土 (FI)	XXXX
						廃棄物 (W)		XXXX

図 2-4 土質柱状図記号

① 土質については第 1 分類によって記入し，必要に応じて例えば図 2-5 のように第 2 分類との組合せとする。

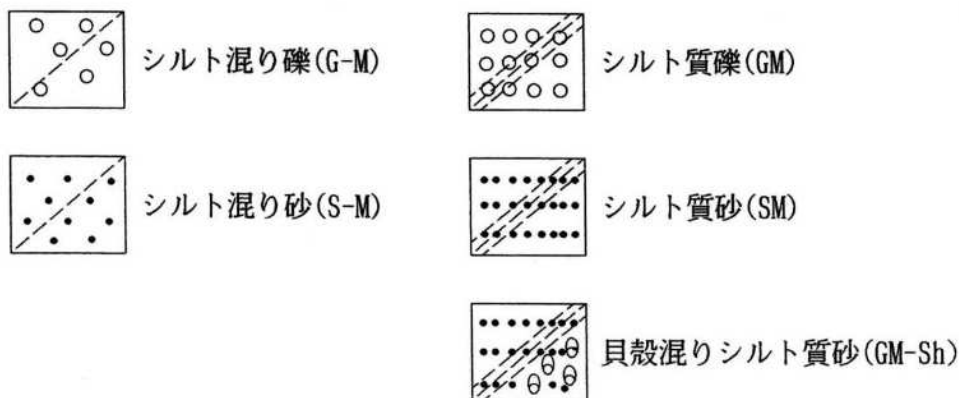


図 2-5 第 1 分類と第 2 分類の組合せの例

② 互層については，およそその構成比によって欄を縦割にし，図 2-6 の例のように記入する。



図 2-6 互層の表示例

③ 土質のうち，特殊土，岩盤，玉石については，第 3 分類によって記入する。

④ 表土，埋土，廃棄物については第 3 分類を用いて記入し，記事の欄に土質材料等を記載する。

20. 色 調

色調は、明るい自然光の中で、湿潤状態で観察する。表現に用いる色は「黒・褐・赤・橙・黄・緑・青・紫・白」を基本色とし、基本色以外は基本色の組み合わせ（原則として 2 色）とする。基本色の組合せは主色の前に従色を冠する。また、必要に応じて「濃」及び「淡」の形容詞をつけると共に、黒味を帯びる時は「暗」の形容詞を付ける。従色が特に微弱な時は「帯」の形容詞を付ける。礫岩など雑多な色を呈する時は何色と何色の「雑色」、色が混じっている時は何色と何色の「斑色」とする。

この他、赤白色は桃色、褐色は茶色等慣用的な表現を用いた時が適切な時は、それらを用いてよいこととする。

21. 相対密度、相対稠度

相対密度及び相対稠度は、表 2-1～2-3 を参考にする。

表 2-1 砂地盤の相対密度の表現法

相 対 密 度	N 値
非常に緩い	0 ～ 4
緩 い	4 ～ 10
中 ぐ ら い	10 ～ 30
密 な	30 ～ 50
非常に密な	50 以上

表 2-2 粘土地盤の相対稠度の表現法

相 対 稠 度	N 値
非常に軟い	0 ～ 2
軟 い	2 ～ 4
中 ぐ ら い	4 ～ 8
硬 い	8 ～ 15
非常に硬い	15 ～ 30
特別に硬い	30 以上

表 2-3 細粒土の相対稠度区分と状態表現

状態表現	現場における判別方法 (原位置土に対する親指試験)
軟らかい	親指をたやすく押し込める
中 位	かなり力を入れないと親指は押し込めない
硬 い	親指でへこませることはできるが、親指を貫入させるには大きな力を要する
非常に硬い	親指の爪はたやすく入る
固結した	親指の爪も入らない

22. 記事

記事には次のようなものを深度と共に記入するが、ボーリングの目的に応じて適切な観察を行い、適切な記事を記入する。

地盤の地質年代的区分

沖積層、洪積層等

① 地盤の成因的区分

表土、崖錐堆積物、段丘堆積物、火山噴出物、土石流堆積物、泥流堆積物、風化岩及び盛土廃棄物等

② 土質の特徴

粒度構成、礫の形態、腐植質、有機質、貝殻、含水状態等

③ 掘進作業における特記事項

23. 空欄

空欄は，その他の組織的に区分し記載する事項があればそれについて記入する。
欄が不足すれば，記事の欄を利用して設けるとよい。

24. 孔内水位

孔内水位欄は，原則として自然水位Hを記入し，測定月日を併記する。

25. 標準貫入試験

標準貫入試験は，深度，10 cm毎の打撃回数／貫入量を記入する。N値については，折れ線グラフを用いて表す。

26. 原位置試験

原位置試験は，物理検層，孔内載荷試験等の試験について，試験深度，試験名及び試験結果を記入する。なお，試験結果については，本様式が合わないときは別途柱状図様式を作成して記入するものとする。

27. 試料採取

試料採取は，採取深度，試料番号，採取方法について記入する。

28. 掘進月日

掘進月日は，日毎の掘進区間を記入する。

29. 試験等の記号例

表 2-4 原位置試験等の記号例

記 号	原 位 置 試 験 等 の 名 称
S	標準貫入試験
L	孔内水平載荷試験
P _T	現場透水試験
P _W	間隙水圧測定
T	シンウォールサンプリング
D	デニソンサンプリング
T _r	サンドサンプリング

30. 地盤高の基準

土質調査の地盤高は，下水道河川局設置の補助水準点を使用することを原則とする。

マンホール目視調査流下状況速報値

[illegible]

調査数量表

(別表)

業務名: 八軒4丁目中央線(八軒9条西4丁目)ほか大口径管調査業務

No	施設重要度	竣功年	経過 年数	住所	作業 区分	排除 方式	管渠断面	管径	延長	管種	調査 方法
1	線の施設(重要)	昭和41年	58年	八軒9条西4丁目	昼間	合流	円形管	2000	157.26	C	TV
2	線の施設	昭和41年	58年	八軒9条西4丁目	昼間	合流	円形管	2000	182.20	C	TV
3	線の施設	昭和41年	58年	八軒9条西4丁目	昼間	合流	円形管	2000	37.42	C	TV
4	線の施設	昭和41年	58年	八軒9条西4丁目	昼間	合流	円形管	2000	4.81	C	TV
5	線の施設(重要)	昭和48年	51年	八軒9条西7丁目	夜間	合流	円形管	2000	17.61	C	TV
6	線の施設(重要)	昭和48年	51年	八軒9条西7丁目	夜間	合流	円形管	2000	19.15	C	TV
7	線の施設(重要)	昭和44年	55年	八軒9条西7丁目	夜間	合流	円形管	2700	22.50	C	再判定
8	線の施設(重要)	昭和44年	55年	八軒9条西7丁目	夜間	合流	円形管	2300	208.00	C	再判定
9	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条西8丁目	夜間	汚水	円形管	2400	67.82	C	特殊
10	線の施設(重要)	昭和55年	44年	八軒8条西8丁目	夜間	汚水	円形管	2400	65.52	C	特殊
11	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条西8丁目	夜間	汚水	円形管	2400	146.19	C	特殊
12	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒8条西8丁目	夜間	汚水	円形管	2400	130.24	C	特殊
13	線の施設(重要)	昭和44年	55年	八軒10条西6丁目	夜間	合流	円形管	2300	70.15	C	再判定
14	線の施設(重要)	昭和44年	55年	八軒10条西6丁目	夜間	合流	円形管	2300	86.35	C	再判定
15	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条西4丁目	夜間	合流	円形管	2300	186.95	C	再判定
16	線の施設(重要)	昭和42年	57年	八軒10条西4丁目	昼間	雨水	円形管	2000	13.68	C	TV
17	線の施設(重要)	昭和42年	57年	八軒10条西4丁目	昼間	合流	円形管	2000	12.89	C	TV
18	線の施設(重要)	昭和42年	57年	八軒10条西3丁目	昼間	雨水	円形管	2000	10.65	C	TV
19	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条西3丁目	夜間	合流	円形管	2200	118.89	C	再判定
20	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条西3丁目	夜間	合流	円形管	2200	113.21	C	再判定
21	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条西6丁目	夜間	汚水	円形管	2400	119.59	C	特殊
22	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条西8丁目	夜間	汚水	円形管	2400	116.40	C	特殊
23	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条西7丁目	夜間	汚水	円形管	2400	115.38	C	特殊
24	線の施設	昭和41年	58年	八軒7条西4丁目	昼間	合流	円形管	2000	182.20	C	TV
25	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条西5丁目	夜間	汚水	円形管	2400	131.71	C	特殊
26	線の施設	昭和58年	41年	八軒3条西5丁目	夜間	合流	円形管	2600	247.18	C	特殊
27	線の施設	昭和58年	41年	八軒3条西4丁目	夜間	合流	円形管	2600	34.75	C	特殊
28	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条西4丁目	夜間	汚水	円形管	2400	107.44	C	特殊
29	線の施設(重要)	昭和41年	58年	八軒6条西4丁目	昼間	合流	円形管	2000	187.01	C	TV
30	線の施設(重要)	昭和41年	58年	八軒6条西2丁目	昼間	合流	円形管	2000	230.07	C	TV
31	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒5条西3丁目	夜間	汚水	円形管	2400	268.99	C	特殊
32	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒5条西5丁目	夜間	合流	円形管	2080	162.76	C	特殊
33	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒5条西4丁目	夜間	汚水	円形管	2400	52.78	C	特殊
34	線の施設	昭和59年	40年	八軒3条西4丁目	夜間	合流	円形管	2600	119.21	C	特殊
35	線の施設	昭和59年	40年	八軒3条西2丁目	夜間	合流	円形管	2600	235.78	C	特殊
36	線の施設	昭和59年	40年	八軒3条西4丁目	夜間	合流	円形管	2600	119.21	C	特殊
37	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条西1丁目	夜間	合流	円形管	2200	15.91	C	再判定
38	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条西1丁目	夜間	合流	円形管	2200	223.54	C	再判定
39	線の施設(重要)	昭和60年	39年	八軒10条西1丁目	夜間	汚水	円形管	2400	89.18	C	特殊
40	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条西1丁目	夜間	合流	円形管	2200	82.60	C	目視
41	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条東1丁目	夜間	合流	円形管	2200	23.20	C	目視
42	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条東1丁目	夜間	合流	円形管	2200	99.62	C	再判定
43	線の施設(重要)	平成3年	33年	八軒10条東1丁目	夜間	汚水	円形管	2400	74.13	C	特殊
44	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条東2丁目	夜間	合流	円形管	2200	66.77	C	再判定
45	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条東1丁目	夜間	合流	円形管	2200	75.00	C	再判定
46	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条東1丁目	夜間	汚水	円形管	2400	112.50	C	特殊
47	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条東1丁目	夜間	汚水	円形管	2400	117.51	C	特殊
48	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条西1丁目	夜間	汚水	円形管	2400	250.70	C	特殊
49	線の施設(重要)	昭和44年	55年	八軒10条東3丁目	夜間	合流	円形管	2200	189.23	C	再判定
50	線の施設(重要)	昭和44年	55年	八軒10条東4丁目	夜間	合流	円形管	2200	48.57	C	再判定
51	線の施設(重要)	昭和44年	55年	八軒10条東4丁目	夜間	合流	円形管	2200	86.50	C	再判定
52	線の施設(重要)	昭和44年	55年	八軒10条東4丁目	夜間	合流	円形管	2200	45.50	C	再判定
53	線の施設(重要)	昭和55年	44年	八軒5条東3丁目	夜間	汚水	円形管	2400	216.13	C	特殊
54	線の施設(重要)	昭和55年	44年	八軒6条東4丁目	夜間	汚水	円形管	2400	340.64	C	特殊
55	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条東5丁目	夜間	汚水	円形管	2400	116.00	C	特殊
56	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条東5丁目	夜間	汚水	円形管	2400	14.00	C	特殊
57	線の施設(重要)	昭和53年	46年	八軒6条東5丁目	夜間	汚水	円形管	2400	47.84	C	特殊
58	線の施設(重要)	昭和53年	46年	北20条西15丁目	夜間	汚水	円形管	2400	57.07	C	特殊
59	線の施設(重要)	昭和53年	46年	北20条西15丁目	夜間	汚水	円形管	2400	115.42	C	特殊
60	線の施設(重要)	昭和53年	46年	北20条西15丁目	夜間	汚水	円形管	2400	210.67	C	特殊
61	線の施設(重要)	平成5年	31年	山の手2条1丁目	昼間	合流	円形管	2200	119.50	C	目視
62	線の施設(重要)	平成5年	31年	山の手2条1丁目	昼間	合流	円形管	2400	71.00	C	目視
63	線の施設(重要)	平成5年	31年	山の手2条1丁目	昼間	合流	円形管	2400	288.00	C	目視
64	線の施設(重要)	平成4年	32年	山の手1条1丁目	昼間	合流	円形管	2400	141.43	C	目視

調査数量表

(別表)

業務名: 八軒4丁目中央線(八軒9条西4丁目)ほか大口径管調査業務

No	施設重要度	竣工年	経過 年数	住所	作業 区分	排除 方式	管渠断面	管径	延長	管種	調査 方法
65	線の施設	平成4年	32年	二十四軒4条6丁目	屋間	合流	円形管	2400	201.87	C	目視
66	線の施設	平成4年	32年	二十四軒4条6丁目	屋間	合流	円形管	2400	95.71	C	目視
67	線の施設(重要)	平成4年	32年	二十四軒3条6丁目	屋間	合流	円形管	2400	195.50	C	目視
68	線の施設(重要)	平成5年	31年	二十四軒3条7丁目	屋間	合流	円形管	2600	321.99	C	目視
69	線の施設(重要)	昭和58年	41年	八軒4条東5丁目	夜間	汚水	円形管	2000	233.76	C	TV
70	線の施設(重要)	昭和58年	41年	八軒3条東5丁目	夜間	汚水	円形管	2000	139.01	C	TV
71	線の施設	昭和45年	54年	北11条西13丁目	夜間	合流	円形管	2200	148.92	?	再判定
72	線の施設	昭和45年	54年	北8条西11丁目	屋間	合流	円形管	2200	38.95	?	目視
73	線の施設(重要)	平成5年	31年	二十四軒1条7丁目	屋間	合流	円形管	2600	309.84	C	目視
74	線の施設(重要)	平成5年	31年	宮の森3条1丁目	屋間	合流	円形管	2600	165.75	C	目視
75	線の施設	平成5年	31年	宮の森3条3丁目	屋間	合流	円形管	2600	107.00	C	目視
76	線の施設	平成5年	31年	宮の森2条3丁目	屋間	合流	円形管	2600	32.00	C	目視
77	線の施設	平成5年	31年	宮の森2条3丁目	屋間	合流	円形管	2600	31.74	C	目視
78	線の施設	平成5年	31年	宮の森3条4丁目	屋間	合流	円形管	2600	115.75	C	目視
79	線の施設	平成5年	31年	宮の森3条5丁目	屋間	合流	円形管	2400	114.60	C	目視
80	線の施設	平成5年	31年	宮の森3条6丁目	屋間	合流	円形管	2000	69.61	C	TV
81	線の施設(重要)	平成5年	31年	宮の森3条6丁目	屋間	合流	円形管	2000	56.28	C	TV
82	線の施設(重要)	昭和40年	59年	宮の森1条1丁目	屋間	合流	円形管	2000	105.23	C	TV
83	線の施設(重要)	昭和60年	39年	宮の森1条1丁目	屋間	雨水	円形管	2000	21.50	C	TV
84	線の施設	昭和62年	37年	大通西16丁目	夜間	合流	円形管	3000	25.78	C	目視
85	線の施設(重要)	昭和62年	37年	大通西16丁目	夜間	合流	円形管	3000	133.83	C	目視
86	線の施設(重要)	昭和62年	37年	南1条西16丁目	夜間	合流	円形管	3000	73.50	C	目視
87	線の施設(重要)	昭和62年	37年	南3条西15丁目	夜間	合流	円形管	3000	227.56	C	目視
88	線の施設	昭和62年	37年	南3条西14丁目	夜間	合流	円形管	3000	34.48	C	目視
89	線の施設	昭和62年	37年	南3条西14丁目	夜間	合流	円形管	3000	124.56	C	目視
90	線の施設	昭和62年	37年	南3条西15丁目	夜間	合流	円形管	3000	35.48	C	目視
91	線の施設(重要)	昭和64年	35年	北1条西12丁目	夜間	合流	円形管	2400	124.63	C	目視
92	線の施設(重要)	平成3年	33年	大通西12丁目	夜間	合流	円形管	2400	125.39	C	目視
93	線の施設(重要)	平成3年	33年	大通西11丁目	夜間	合流	円形管	2200	91.41	C	目視
94	線の施設(重要)	平成3年	33年	大通西10丁目	夜間	合流	円形管	2200	96.82	C	目視
95	線の施設(重要)	平成3年	33年	大通西10丁目	夜間	合流	円形管	2200	66.71	C	目視
96	線の施設(重要)	平成3年	33年	大通西9丁目	夜間	合流	円形管	2000	128.49	C	TV
97	線の施設	平成5年	31年	南3条東2丁目	屋間	雨水	円形管	2800	233.00	C	目視
98	線の施設	昭和62年	37年	南3条西13丁目	夜間	合流	円形管	2800	41.80	C	目視
99	線の施設	昭和63年	36年	南3条西11丁目	夜間	合流	円形管	2600	268.00	C	目視
100	線の施設(重要)	昭和63年	36年	南3条西1丁目	夜間	合流	円形管	2400	17.81	C	目視
101	線の施設(重要)	昭和63年	36年	南3条西10丁目	夜間	合流	円形管	2400	52.19	C	目視
102	線の施設	昭和63年	36年	南3条西13丁目	夜間	合流	円形管	2800	123.48	C	目視
103	線の施設	昭和63年	36年	南3条西9丁目	夜間	合流	円形管	2400	109.00	C	目視
104	線の施設	昭和63年	36年	南3条西9丁目	夜間	合流	円形管	2200	125.88	C	目視
105	線の施設(重要)	平成3年	33年	南6条西1丁目	夜間	雨水	円形管	2800	140.01	C	目視
106	線の施設	平成4年	32年	南6条東2丁目	屋間	雨水	円形管	2800	193.52	C	目視
107	線の施設	平成3年	33年	南6条東1丁目	屋間	雨水	円形管	2800	48.87	C	目視
108	線の施設(重要)	平成5年	31年	南6条東2丁目	屋間	雨水	円形管	2800	183.51	C	目視
109	線の施設	平成5年	31年	南4条東4丁目	屋間	雨水	円形管	2800	148.00	C	目視
110	線の施設	平成5年	31年	南4条東4丁目	屋間	雨水	円形管	2800	38.66	C	目視
111	線の施設	平成5年	31年	南4条東4丁目	屋間	雨水	円形管	2800	66.79	C	目視
112	線の施設	平成3年	33年	南6条西2丁目	夜間	雨水	円形管	2800	235.57	C	目視
113	線の施設(重要)	平成2年	34年	南9条西6丁目	夜間	合流	円形管	2800	189.62	C	目視
114	線の施設(重要)	平成5年	31年	南9条西8丁目	夜間	合流	円形管	2600	127.70	C	目視
115	線の施設(重要)	平成2年	34年	南8条西7丁目	夜間	合流	円形管	2800	167.00	C	目視
116	線の施設(重要)	昭和64年	35年	南9条西4丁目	夜間	合流	円形管	2800	135.55	C	目視
117	線の施設(重要)	昭和64年	35年	南9条西4丁目	夜間	合流	円形管	2800	167.40	C	目視
118	線の施設	昭和64年	35年	南8条西3丁目	夜間	合流	円形管	3500	79.19	C	目視
119	線の施設	平成7年	29年	南11条西8丁目	夜間	合流	円形管	2600	184.77	C	目視
120	線の施設(重要)	平成6年	30年	南11条西8丁目	夜間	合流	円形管	2600	64.18	C	目視
121	線の施設	平成6年	30年	南9条西8丁目	夜間	合流	円形管	2600	12.23	C	目視
122	線の施設	平成5年	31年	南12条西8丁目	屋間	合流	円形管	2400	123.00	C	目視
123	線の施設	平成5年	31年	南13条西8丁目	屋間	合流	円形管	2400	123.00	C	目視
124	線の施設	平成5年	31年	南14条西8丁目	屋間	合流	円形管	2200	161.91	C	目視
125	線の施設	平成5年	31年	南14条西8丁目	屋間	合流	円形管	2400	217.50	C	目視
126	線の施設	平成5年	31年	南15条西9丁目	屋間	合流	円形管	2200	151.58	C	目視
127	線の施設	平成5年	31年	南16条西9丁目	屋間	合流	円形管	2200	162.50	C	目視

調査数量表

(別表)

業務名: 八軒4丁目中央線(八軒9条西4丁目)ほか大口径管調査業務

No	施設重要度	竣功年	経過年数	住所	作業区分	排除方式	管渠断面	管径	延長	管種	調査方法
128	線の施設	平成5年	31年	南17条西9丁目	昼間	合流	円形管	2200	149.50	C	目視
129	線の施設	平成5年	31年	南18条西9丁目	昼間	合流	円形管	2200	146.00	C	目視
130	線の施設	平成5年	31年	南18条西9丁目	昼間	合流	円形管	2000	76.27	C	TV
131	線の施設(重要)	平成5年	31年	南19条西9丁目	昼間	合流	円形管	2000	54.99	C	TV
132	線の施設(重要)	昭和52年	47年	川沿14条1丁目	昼間	雨水	矩形管	2250	100.80	C	再判定
133	線の施設(重要)	昭和58年	41年	八軒9条西7丁目	夜間	合流	矩形管	1800	3.40	C	特殊
134	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒9条西7丁目	夜間	汚水	矩形管	2300	21.96	C	特殊
135	線の施設(重要)	昭和44年	55年	八軒9条西7丁目	夜間	合流	矩形管	2700	28.76	C	再判定
136	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒9条西7丁目	夜間	汚水	矩形管	2300	209.01	C	特殊
137	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒10条西6丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	15.85	C	特殊
138	線の施設	昭和58年	41年	八軒9条西7丁目	夜間	合流	矩形管	1800	75.00	C	特殊
139	線の施設(重要)	昭和58年	41年	八軒9条西7丁目	夜間	雨水	矩形管	1800	29.50	C	目視
140	線の施設(重要)	昭和58年	41年	八軒9条西7丁目	夜間	合流	矩形管	1800	24.30	C	特殊
141	線の施設	昭和46年	53年	八軒9条西7丁目	夜間	雨水	矩形管	2000	42.00	C	目視
142	線の施設(重要)	昭和46年	53年	八軒9条西7丁目	夜間	雨水	矩形管	2000	37.60	C	目視
143	線の施設	昭和58年	41年	八軒9条西7丁目	夜間	合流	矩形管	1800	133.00	C	特殊
144	線の施設	昭和58年	41年	八軒8条西6丁目	夜間	合流	矩形管	1800	3.50	C	特殊
145	線の施設	昭和58年	41年	八軒8条西6丁目	夜間	合流	矩形管	1800	121.52	C	特殊
146	線の施設	昭和58年	41年	八軒8条西6丁目	夜間	合流	矩形管	1800	62.41	C	特殊
147	線の施設	昭和58年	41年	八軒7条西7丁目	夜間	合流	矩形管	1800	11.23	C	特殊
148	線の施設	昭和58年	41年	八軒9条西7丁目	夜間	合流	矩形管	1800	71.00	C	特殊
149	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒10条西6丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	149.75	C	特殊
150	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒10条西4丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	0.80	C	特殊
151	線の施設(重要)	昭和60年	39年	八軒10条西2丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	10.00	C	特殊
152	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒10条西4丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	160.00	C	特殊
153	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒10条西3丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	249.50	C	特殊
154	線の施設(重要)	昭和58年	41年	八軒6条西7丁目	夜間	合流	矩形管	1800	105.60	C	特殊
155	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒5条西6丁目	夜間	合流	矩形管	1800	11.00	C	特殊
156	線の施設	昭和58年	41年	八軒7条西7丁目	夜間	合流	矩形管	1800	120.20	C	特殊
157	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒5条西5丁目	夜間	合流	矩形管	2080	57.42	C	特殊
158	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒5条西6丁目	夜間	合流	矩形管	1800	21.79	C	特殊
159	線の施設(重要)	昭和59年	40年	八軒5条西5丁目	夜間	合流	矩形管	2080	24.81	C	特殊
160	線の施設(重要)	昭和60年	39年	八軒10条西1丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	217.04	C	特殊
161	線の施設(重要)	昭和62年	37年	八軒10条東1丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	10.00	C	特殊
162	線の施設(重要)	昭和64年	35年	八軒10条東1丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	198.92	C	特殊
163	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条東2丁目	夜間	合流	矩形管	2200	49.68	C	再判定
164	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条東2丁目	夜間	合流	矩形管	2200	57.90	C	再判定
165	線の施設(重要)	昭和45年	54年	八軒10条東2丁目	夜間	合流	矩形管	2200	67.65	C	再判定
166	線の施設(重要)	昭和62年	37年	八軒10条東3丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	30.00	C	特殊
167	線の施設(重要)	昭和62年	37年	八軒10条東2丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	170.00	C	特殊
168	線の施設(重要)	昭和62年	37年	八軒10条東4丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	70.00	C	特殊
169	線の施設(重要)	平成4年	32年	八軒10条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	19.19	C	目視
170	線の施設(重要)	平成4年	32年	八軒10条東5丁目	夜間	合流	矩形管	2070	12.00	C	特殊
171	線の施設(重要)	平成4年	32年	八軒10条東5丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	37.25	C	特殊
172	線の施設(重要)	平成4年	32年	八軒10条東5丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	51.28	C	特殊
173	線の施設(重要)	昭和62年	37年	八軒10条東3丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	130.00	C	特殊
174	線の施設(重要)	昭和62年	37年	八軒10条東4丁目	夜間	汚水	矩形管	2070	90.00	C	特殊
175	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒10条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	63.00	C	目視
176	線の施設(重要)	平成4年	32年	八軒10条東6丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	38.02	C	目視
177	線の施設(重要)	昭和59年	40年	北22条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2700	39.00	C	目視
178	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒6条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	85.00	C	目視
179	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒7条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	51.00	C	目視
180	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒7条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	13.00	C	目視
181	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒7条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	163.50	C	目視
182	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒9条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	3.50	C	目視
183	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒9条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	132.00	C	目視
184	線の施設(重要)	昭和42年	57年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2700	75.60	C	再判定
185	線の施設(重要)	昭和42年	57年	北22条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2700	62.20	C	再判定
186	線の施設(重要)	昭和59年	40年	北21条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2760	63.40	C	目視
187	線の施設(重要)	昭和44年	55年	北22条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2700	64.40	C	目視
188	線の施設(重要)	昭和59年	40年	北22条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2760	65.50	C	目視
189	線の施設(重要)	昭和59年	40年	北22条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2760	70.50	C	目視
190	線の施設(重要)	昭和59年	40年	北22条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2760	26.50	C	目視

調査数量表

(別表)

業務名: 八軒4丁目中央線(八軒9条西4丁目)ほか大口径管調査業務

No	施設重要度	竣功年	経過 年数	住所	作業 区分	排除 方式	管渠断面	管径	延長	管種	調査 方法
191	線の施設(重要)	昭和59年	40年	北21条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2760	78.20	C	目視
192	線の施設(重要)	昭和44年	55年	北22条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2700	58.00	C	目視
193	線の施設(重要)	昭和44年	55年	北22条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2700	23.54	C	再判定
194	線の施設(重要)	昭和64年	35年	八軒2条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	120.00	C	目視
195	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒6条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	16.00	C	目視
196	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒5条東4丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	20.00	C	目視
197	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒4条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	43.50	C	目視
198	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒4条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	55.50	C	目視
199	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒5条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	76.00	C	目視
200	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒6条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	39.00	C	目視
201	線の施設(重要)	平成2年	34年	八軒6条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2400	19.00	C	目視
202	線の施設(重要)	昭和59年	40年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	163.00	C	目視
203	線の施設(重要)	昭和42年	57年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2700	5.00	C	目視
204	線の施設(重要)	昭和60年	39年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	48.00	C	目視
205	線の施設(重要)	昭和59年	40年	北20条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2760	10.00	C	目視
206	線の施設(重要)	昭和59年	40年	北20条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2760	52.00	C	目視
207	線の施設(重要)	昭和42年	57年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2700	205.00	C	目視
208	線の施設(重要)	昭和42年	57年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2700	68.68	C	目視
209	線の施設(重要)	昭和42年	57年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2480	16.40	C	目視
210	線の施設(重要)	昭和60年	39年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	1.60	C	目視
211	線の施設(重要)	昭和42年	57年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2480	63.60	C	目視
212	線の施設(重要)	平成4年	32年	二十四軒3条4丁目	昼間	合流	矩形管	3400	90.00	C	目視
213	線の施設(重要)	平成4年	32年	二十四軒3条4丁目	昼間	合流	矩形管	3400	30.00	C	目視
214	線の施設(重要)	平成4年	32年	二十四軒3条2丁目	昼間	合流	矩形管	3400	60.00	C	目視
215	線の施設(重要)	平成4年	32年	二十四軒3条3丁目	昼間	合流	矩形管	3400	120.00	C	目視
216	線の施設(重要)	平成4年	32年	二十四軒3条6丁目	昼間	合流	矩形管	3400	10.20	C	目視
217	線の施設(重要)	平成4年	32年	二十四軒3条4丁目	昼間	合流	矩形管	3400	60.00	C	目視
218	線の施設(重要)	平成4年	32年	二十四軒3条5丁目	昼間	合流	矩形管	3400	135.00	C	目視
219	線の施設(重要)	平成4年	32年	二十四軒3条5丁目	昼間	合流	矩形管	3400	19.80	C	目視
220	線の施設(重要)	平成3年	33年	八軒1条東5丁目	昼間	合流	矩形管	2550	135.00	C	目視
221	線の施設(重要)	平成3年	33年	八軒2条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2350	120.00	C	目視
222	線の施設(重要)	昭和64年	35年	八軒2条東5丁目	昼間	雨水	矩形管	2350	60.00	C	目視
223	線の施設(重要)	昭和60年	39年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	148.80	C	目視
224	線の施設	昭和60年	39年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	188.50	C	目視
225	線の施設(重要)	昭和43年	56年	北18条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2480	31.87	C	目視
226	線の施設(重要)	昭和43年	56年	北17条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2430	211.50	C	目視
227	線の施設	昭和60年	39年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	25.00	C	目視
228	線の施設	昭和60年	39年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	11.50	C	目視
229	線の施設(重要)	平成5年	31年	二十四軒3条1丁目	昼間	合流	矩形管	5100	4.00	C	目視
230	線の施設(重要)	昭和64年	35年	八軒1条東5丁目	昼間	合流	矩形管	2550	107.93	C	目視
231	線の施設(重要)	平成4年	32年	二十四軒3条1丁目	昼間	合流	矩形管	2550	225.00	C	目視
232	線の施設(重要)	昭和64年	35年	二十四軒2条1丁目	昼間	合流	矩形管	2550	72.07	C	目視
233	線の施設(重要)	昭和43年	56年	北15条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2430	67.00	C	目視
234	線の施設(重要)	昭和46年	53年	北15条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2430	88.00	C	再判定
235	線の施設	昭和60年	39年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	165.00	C	目視
236	線の施設(重要)	昭和43年	56年	北16条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2430	91.00	C	目視
237	線の施設(重要)	昭和43年	56年	北14条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2430	42.00	C	再判定
238	線の施設	昭和60年	39年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	9.50	C	目視
239	線の施設(重要)	昭和43年	56年	北14条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2430	34.00	C	再判定
240	線の施設	昭和60年	39年	北16条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	20.50	C	目視
241	線の施設	昭和60年	39年	北13条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	96.50	C	目視
242	線の施設(重要)	昭和43年	56年	二十四軒3条2丁目	夜間	合流	矩形管	2500	108.00	C	再判定
243	線の施設(重要)	平成4年	32年	二十四軒3条2丁目	昼間	合流	矩形管	2500	8.00	C	目視
244	線の施設(重要)	昭和60年	39年	北12条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	81.50	C	目視
245	線の施設	昭和60年	39年	北13条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	15.30	C	目視
246	線の施設(重要)	昭和60年	39年	北12条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	28.50	C	目視
247	線の施設	昭和60年	39年	北13条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	46.00	C	目視
248	線の施設	昭和60年	39年	北13条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	78.20	C	目視
249	線の施設	昭和60年	39年	北13条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	57.50	C	目視
250	線の施設(重要)	昭和46年	53年	北11条西14丁目	夜間	合流	矩形管	2430	95.04	C	再判定
251	線の施設(重要)	昭和45年	54年	北11条西14丁目	夜間	合流	矩形管	2160	104.00	C	再判定
252	線の施設(重要)	昭和45年	54年	北11条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2160	32.00	C	再判定
253	線の施設(重要)	昭和45年	54年	北11条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2160	11.42	C	再判定

調査数量表

(別表)

業務名: 八軒4丁目中央線(八軒9条西4丁目)ほか大口径管調査業務

No	施設重要度	竣工年	経過年数	住所	作業区分	排除方式	管渠断面	管径	延長	管種	調査方法
254	線の施設(重要)	昭和43年	56年	北14条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2430	110.00	C	再判定
255	線の施設(重要)	昭和46年	53年	北11条西14丁目	夜間	合流	矩形管	2430	3.00	C	再判定
256	線の施設(重要)	昭和46年	53年	北11条西14丁目	夜間	合流	矩形管	2160	17.05	C	再判定
257	線の施設(重要)	昭和45年	54年	北11条西14丁目	夜間	合流	矩形管	2160	40.58	C	再判定
258	線の施設	昭和57年	42年	北11条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	56.00	C	目視
259	線の施設(重要)	昭和60年	39年	北11条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2760	70.90	C	目視
260	線の施設	昭和60年	39年	北11条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2760	2.60	C	目視
261	線の施設	昭和59年	40年	北11条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	39.00	C	目視
262	線の施設	昭和57年	42年	北10条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	18.00	C	目視
263	線の施設	昭和59年	40年	北10条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	61.95	C	目視
264	線の施設(重要)	昭和46年	53年	北9条西11丁目	夜間	合流	矩形管	1800	30.46	C	再判定
265	線の施設(重要)	昭和45年	54年	北11条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2160	5.00	C	再判定
266	線の施設(重要)	昭和45年	54年	北11条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2160	143.53	C	再判定
267	線の施設(重要)	昭和45年	54年	北11条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2160	45.56	C	再判定
268	線の施設	昭和59年	40年	北9条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	89.05	C	目視
269	線の施設	昭和59年	40年	北9条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	90.00	C	目視
270	線の施設	昭和61年	38年	北7条西16丁目	夜間	合流	矩形管	2760	191.03	C	目視
271	線の施設	昭和61年	38年	北7条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2760	95.86	C	目視
272	線の施設	昭和61年	38年	北7条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2760	59.63	C	目視
273	線の施設	昭和61年	38年	北7条西15丁目	夜間	合流	矩形管	2760	37.00	C	目視
274	線の施設(重要)	昭和61年	38年	北5条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2760	54.30	C	目視
275	線の施設(重要)	昭和61年	38年	北4条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2520	20.70	C	目視
276	線の施設(重要)	昭和61年	38年	北7条西14丁目	夜間	合流	矩形管	2760	182.10	C	目視
277	線の施設	昭和61年	38年	北6条西14丁目	夜間	合流	矩形管	2960	37.88	C	目視
278	線の施設	昭和61年	38年	北6条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2760	110.39	C	目視
279	線の施設	昭和61年	38年	北5条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2760	72.00	C	目視
280	線の施設	昭和61年	38年	北5条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2760	58.00	C	目視
281	線の施設(重要)	昭和61年	38年	北4条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2520	108.80	C	目視
282	線の施設	昭和61年	38年	北3条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2520	76.20	C	目視
283	線の施設	昭和61年	38年	北3条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2520	16.92	C	目視
284	線の施設	昭和61年	38年	北3条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2520	33.08	C	目視
285	線の施設	昭和61年	38年	北3条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2520	61.28	C	目視
286	線の施設	昭和61年	38年	北2条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2520	24.00	C	目視
287	線の施設	昭和61年	38年	北2条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2520	32.83	C	目視
288	線の施設	昭和61年	38年	北1条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2520	54.00	C	目視
289	線の施設	昭和61年	38年	北1条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2520	27.89	C	目視
290	線の施設(重要)	昭和61年	38年	北1条西13丁目	夜間	合流	矩形管	2520	75.76	C	目視
291	線の施設	昭和62年	37年	大通西15丁目	夜間	合流	矩形管	3100	21.41	C	目視
292	線の施設(重要)	昭和62年	37年	大通西14丁目	夜間	合流	矩形管	3100	17.40	C	目視
293	線の施設(重要)	平成8年	28年	大通西14丁目	夜間	合流	矩形管	3100	12.00	C	目視
294	線の施設	昭和62年	37年	大通西15丁目	夜間	合流	矩形管	3100	92.00	C	目視
295	線の施設	昭和62年	37年	大通西14丁目	夜間	合流	矩形管	3100	8.00	C	目視
296	線の施設	昭和62年	37年	大通西14丁目	夜間	合流	矩形管	3100	60.00	C	目視
297	線の施設(重要)	昭和62年	37年	大通西14丁目	夜間	合流	矩形管	3100	41.95	C	目視
298	線の施設(重要)	昭和62年	37年	大通西14丁目	夜間	合流	矩形管	3100	57.00	C	目視
299	線の施設(重要)	昭和60年	39年	大通西13丁目	夜間	合流	矩形管	3100	27.98	C	目視
300	線の施設(重要)	平成9年	27年	大通西13丁目	夜間	合流	矩形管	3100	28.55	C	目視
301	線の施設	昭和61年	38年	大通西13丁目	夜間	合流	矩形管	3100	39.00	C	目視
302	線の施設	昭和61年	38年	大通西11丁目	夜間	合流	矩形管	3100	12.00	C	目視
303	線の施設(重要)	昭和60年	39年	北1条西13丁目	夜間	合流	矩形管	3100	47.24	C	目視
304	線の施設	昭和61年	38年	大通西13丁目	夜間	合流	矩形管	3100	10.15	C	目視
305	線の施設(重要)	昭和61年	38年	大通西13丁目	夜間	合流	矩形管	3100	20.97	C	目視
306	線の施設	平成5年	31年	南4条東4丁目	昼間	雨水	矩形管	1750	49.62	C	目視
307	線の施設	昭和63年	36年	南7条西3丁目	夜間	合流	矩形管	1750	156.00	C	目視
308	線の施設	昭和63年	36年	南8条西3丁目	夜間	合流	矩形管	1750	140.00	C	目視
309	線の施設(重要)	昭和39年	60年	南19条西16丁目	昼間	合流	矩形管	1800	32.80	C	目視
310	線の施設(重要)	昭和39年	60年	南19条西16丁目	昼間	合流	矩形管	1800	36.30	C	目視
311	線の施設(重要)	昭和39年	60年	南19条西16丁目	昼間	合流	矩形管	1800	20.00	C	目視
312	線の施設(重要)	昭和39年	60年	南19条西16丁目	昼間	合流	矩形管	1800	16.00	C	目視
313	-	昭和44年	55年	八軒9条西7丁目	夜間	汚水	矩形管	1800	79.80	C	目視
314	-	昭和55年	44年	八軒9条西7丁目	夜間	汚水	矩形管	2000	50.50	C	目視

昼間: 昼間作業とは、AM9時～PM5時の作業を標準とする。

夜間: 夜間作業とは、PM9時～AM5時の作業を標準とする。

管種のCはコンクリート管、Vは塩ビ管。

調査方法の目視は潜行目視調査、TVはテレビカメラ調査、特殊は船体式、自走式、浮体式又は飛行式カメラ調査。